

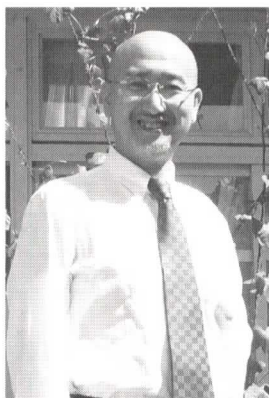
志の公認会計士

久野康成の

「私なら、こうする！」

第35回

非常識な実践経営アドバイス



Question

会社で早く出世する方法はありますか？ もしあれば、教えてください。 (東京都 25歳 会社員)

権力志向が強いため、権限を与えると何をするか分からないからです。金持ちと結婚したい人と結婚したい金持ちがいよいよ、出世したがっている人を引き上げたいと思うような上司もいません。

私が、監査法人に入った頃、上司に、「久野君は、将来どうするの？」とよく聞かれました。上司自身も私たちの将来を不安に思

初めに、なぜ「出世したい」と思っていないか」と言えば、出世できなかった時のリスクがあまりにも大きいからです。何十年も会社のために尽くしたにもかかわらず、何も得られなかったと思えば、働く気力さえ無くなります。仕事の目的を昇進することに設定した人は、悲惨な人生が待っています。

上司もまた、出世意欲の強過ぎる人は、危険分子とみなす傾向があります。そのような人は

っていたのでしょうか。ひたすら昇進を待つのか、独立するの？ 独立しても成功する保証はどこにもありません。将来を不安に思う気持ちはよく分かります。

この質問には、「将来、この会社のシニアパートナーになる」と言いました。すると上司から、「それは、他では絶対に話さないほうがよい」と小さな声で忠告されたことがあります。その時は、なぜ、そんな忠告をするのか

Answer

早く出世できるほど、あなたは本当に優秀ですか

もし、早く出世したいと思うのなら、早く出世したいとは思わないことです。出世は目的ではなく、結果にしかすぎません。人並み以上に成果を出して、会社に貢献しているのなら、地位

や報酬は後から必ず付いてきます。会社は、そのような優秀な人材を放置はしません。それでも放置されていると思うのであれば、会社を代わればよいだけです。本当に優秀ならどんな会社でも受け入れてくれるはずでしょう。問題は、あなたが「本当に優秀か」ということだけです。

理解できませんでしたが、今なら理解できます。現実には私は、シア・パートナーどころか、マネジャーになる前に退職しました。ただ、退職した瞬間に社長になれましたが……。

人より早く出世したいのなら、人より早く独立すればよいかもしれませんね。

若い時には「頭」と「体」を使い全力で努力すべき

独立ではなく、ビジネス・パーソンとして生きるのであれば、今やるべきことは、会社の中で、圧倒的な成果を出せるように努力することだけです。成果を出す方法は2つあります。

第1は、生産性を上げることです。生産性とは、投入量(努力)に対して産出量(成果)をより多く上げることです。ここで注意すべきことは、多くの人は損得勘定で行動を行うため、どうしても要領良く仕事ができるばかりを気にしてしまう傾向があります。

巷によくあるのは、「1年で1億円貯める投資術」、「1年で会計士試験に合格する方法」、「10分で1冊の本が読める速読法」、「あつという間に英語が話せるようになる勉強法」、「1カ月で8キロ痩せられるダイエット法」といった類のものです。

効率性ばかりを追い求める人は、このような安易な方法に手を出して失敗し続けます。どこかに自分の知らない処世術があると、思うかもしれませんが、そんなものは存在しません。あると吹聴する人がいるとすれば、恐らくデータラメの領域を出たものではないでしょう。

生産性を上げる努力をするとは「頭」を使うことです。非常に重要なことですが、本物の一流のビジネス・パーソンになるためには、頭だけではなく「体」も使うことです。

体を使うこととは、徹底的に投入量(努力)を増やすことです。これは、仕事をする時間を増やすことを意味します。「ワー

ク・ライフ・バランス」など絶対に考えてはいけません。一流になるためには、若いうちに仕事だけにすべての情熱を注がなければいけない時期があります。

特に20代の時は、最低3年は全力で体を使わなければいけません。20代で効率性だけを考慮して仕事をしていると、30代で通用しなくなります。仕事は、頭ではなく体で覚えなければならぬときがあるのです。

最後に、出世の速い人の特徴は、上司にとって使いやすい人です。これは、決して上司のイスマンになれと言っているわけではなく、能力が高くて

も、チームプレーができなかつたり、独りよがりな仕事をしたりする人は、昇進が遅くなります。上司は、知識や技術だけでなく、志向性の評価をします。

自分のしたい仕事をする人は、突き詰めればアーティストになれるかもしれませんが、プロフェッショナルにはなれません。プロフェッショナルとは、相手が行ってほしいと思うことを追求する人だからです。

仕事の目的とは何か？ それは、自分の強みを生かして社会に貢献することです。これだけを追求すれば、地位やお金は、絶対に後から付いてきます。求める必要はないのです。

(このコーナーでは、経営に関するよろず相談を読者の皆様から受け付け、実践的アドバイスとしてお答えしております)

【プロフィール】

久野康成(くの・やすなり)
公認会計士。人財開発・東京コンサルティングファーム会長兼 CEO。東京税理士法人統括代表社員。1965年生まれ。愛知県出身。滋賀大学経済学部を卒業後、青山監査法人(プライス ウォーターハウズ)入所。監査部門・中堅企業経営支援部門にて、主に株式公開コンサルティング業に携わる。98年久野康成公認会計士事務所を設立。東京のほか、横浜、名古屋、大阪、インドにて「第2の会計事務所として会社を設立。経理部門へのスタッフ派遣・紹介など幅広い事業を展開し、グループ社員総数は360人に上る。著書に『できる若者は3年で辞める!』『2008年版 図解インドの投資・会計・税務の基本』『母性の経営—management therapy』(共に出版文化社)がある。